



代表 秋田智佳子弁護士

寒中お見舞申し上げます

昨年の総会で前理事長山田延廣弁護士から代表のバトンを受け継いで初めての新年挨拶となります。

昨年は、当NPOで、就労支援と住まい支援にも取り組もうと、月1回の定例会で就労や住まい問題に関連したテーマで講師を招いて勉強会を実施してきましたが、初めて知ることも多くまだまだ政策提言にまでは至っていません。

私達の強みは、常に当事者の生の声を聞ける立場にあることですので、行政や事業の縦割りや予算の壁に対し、1人1人の当事者の声を、専門家の知恵とネットワークを使って代弁し、挑んでいきたいと思えます。

昨年11月、社会貢献支援財団から社会貢献者として私達の地道な活動が表彰され、中国新聞でも受賞について報道いただいたことで、様々な方に知っていただくことができました。

この受賞をエールとして、今後とも、困った方を救済していきたいと思いますので、引き続き皆様のご支援をお願いします。

社会貢献財団受賞式の報告

11月27日、28日、東京帝国ホテルでの授賞式に招待され、秋田、伊達、竹島、松下4名で参加してきました。平成27年の同賞の受賞者には、食べて語ろう会の中本忠子さんや東京の自立サポートセンターもやいなどが、平成26年の受賞者には、北九州のNPO抱撲、広島いのちの電話などがおられ、今回、中本忠子さんにご推薦いただきました。



今年度は、同じ貧困問題に取り組んでおられる生田武志さん、福岡すまいの会、だんだんこども食堂なども受賞されていました。懇親会での受賞者紹介を通じて、受賞者（団体）それぞれが、苦難に直面しながら、困った方を救済したいという共通する思いで活動을續けてこれたことを知り、また各受賞者の方々と苦労話や課題を話し合い、交流を深めることができました。

年末年越し相談会

相談会で待っています - 社会保険労務士 畝田谷栄子（うねだやえいこ）さん



12月6日（火）7日（水）、広島駅南口エールエール地下広場で、反貧困ネットワーク主催、法テラス広島、広島市共催にて「年末年越し相談会」を開催しました。中国新聞での記事掲載だけでなく、NHKの取材もあり、地元のニュースで秋田代表のインタビューが流れるなど、報道が充実したためか、1日目は面談47件、電話2件、2日目は面談70件、電話10件で合計129件の相談がありました。

私たちの活動は、他業種の専門家が連携して問題解決にあたるという点に強みがあります。今回は、社会保険労務士の畝田谷栄子さんからお話を

伺いました。

T：こんにちは。畝田谷さんは、社会保険労務士ですね。社会保険労務士の一般的な業務内容について教えてください。また、反貧困ネットワークの活動に参加したきっかけはなんですか？

畝田谷：社会保険労務士は、労務や人事、社会保険、年金に関する専門家です。一般的には、事務所をもって、企業等からの依頼を受けての業務や、個人からの依頼での相談、手続きを行っていますが、企業の中で働いている社会保険労務士もいます。反貧困ネットワークに参加したきっかけは…昔のことで忘れてしまいました（笑）。

T：私からすれば、畝田谷さんは、反貧困ネットワークの大先輩って感じです。ところで、畝田谷さんは、「社会保障問題研究会ひろしま」という団体の代表も務められているんですよね？

畝田谷：はい、まだ動き始めたばかりですが、呉と広島で交互に定例会を開催しており、社会保障に関する学習会を行っていて、今後は定期的に無料相談会もする予定です。

T：私も、先日初めて定例会に参加させていただきました。障害基礎年金支給決定に関する等級判定ガイドラインの勉強会でしたが、参加者も、医師やMSW、地域包括支援センターの方など、反貧困ネットワークとは少し趣の異なる参加者が多数いらっしやって、現場のお話も色々とも聞けたので、大変興味深く聞かせていただきました。

ところで、本日は、どのような相談を受けられましたか。

畝田谷：そうですね、今日は、高齢の母親と相談者（5女）が2人で暮らしていて、相談者1人で母親の介護をしている。4人の姉たちは、協力してくれない。母親は、現在入院中だけれども、もうすぐ退院する予定で、1人で介護していく自信がない。また、相談者本人にも乳がんの疑いがあると言われていているけれども、検査や治療を受けるのは嫌なので受診したくない、といった主に心の問題の相談を受けました。

T：そうですか、相談者の方は、自分自身の経済的

困窮や病気だけでなく、家族との関係がうまく行っていなかったり、不登校の子どもがいたり、介護が必要な親がいたりといくつもの困難を抱えて、どのように自分の気持ちを整理していけばいいのか、文字通り「途方に暮れている」という方が多いですね。

畝田谷さん：相談会でお話を伺っても、すぐには具体的解決策を示せない相談もありますね。それでも、私たちが少しだけ時間をとってお話を聞くだけで、「聞いてもらえてよかった」「誰にも話せなくてずっと我慢していたが、話をしただけでも気持ちが楽になった」という方がいらっしやいます。その時にはお話を伺うだけで終わったとしても、また何か困った事が起きた時に、「もう一度あそこに相談してみよう」と思い出してもらえ、そんな団体でありたいものですね。

T：本当にそうですね。反貧困ネットワークの活動も、9年目を迎えます。これまでの活動を続けていくだけでなく、長期的な視点での支援のあり方を考えている最中です。畝田谷さんは、かなり早い時期からメンバーとして活動いただいている貴重な人材ですので、是非これからもご協力よろしくお願いします。《相談会集計結果は最終ページ》

反貧困全国集会2016に参加して

2016年10月8日（土）、小雨交じりの体育の日三連休の初日に東京都内で反貧困全国集会2016があり出席してまいりました。午前中は各地の活動報告が行われました。

反貧困ネットワーク広島は、11室のシェルター運営が広く注目されており、資金や運営面において多くの質問をうけました。資金に関する情報交換が行われ比較的手続きが簡便なものを知ることができたのは一つの収穫でした。各種基金など運営費確保のための情報を共有するための場も必要なのではないかと思いました。さらに、究極の普遍的な現金給付福祉であるベーシックインカムについて勉強会をしている地域もありました。午後のシンポジウムでは、市区町村レベルでは他の自治体の情報のことを知らないことが多く、一同に会して各自治体の取組みを紹介しあう機会を設けることが有益なのではないかという提言がありました。これにより先進的な取り組みをしている各自治体の取組みを他の自治体もこれに追いつこう

という意識が強まり全体としてレベルアップできるのではないかという発言もありました。地方は住宅に代わって自動車が大きな問題であることが分かりました。その結果最低生計費は首都圏も地方もあまり変わらない金額になっているそうです。自動車の所有などにおいて基準案を作成し、提言することも必要なのではないかと感じました。フードバンクからの、食品の支援が進みにくいのは、食中毒などの事故が怖いこと、関係する省庁が多いことが理由であるとの報告がありました。なお、農水省は積極的な姿勢を見せているそうです。

このたび出席して、すでにある先進的なアイデアを積極的に発言・実施しているところをうまく先導役にして広めていくこと、最近は公共交通手段減少の影響で自動車が必需品となる地方と都市圏の最低生計費が変わらないということを運動の要素に取り込む必要があると思いました。（T）

第36回全国クレサラ・生活再建問題被害者交流集会in宮崎

第8分科会報告

広島つくしの会 新家隆史

第36回全国クレサラ・生活再建問題被害者交流集会in宮崎が約350名の参加で、11月5日、6日の両日、宮崎市民プラザで開催されました。テーマは「**貧困のない社会を実現しよう～貸金業法等改正後10年目の課題～**」です。



私は、これからの相談で増えることが予想される税金滞納問題の第8分科会相談員交流「**中国ブロックの挨拶でそれいけカーブを熱唱中の戸田弁護士**」

「～税の滞納問題の基礎知識と新しい猶予制度への対応～」に参加しました。

講師は、国税庁OBの角谷啓一税理士です。国税は平成27年4月、地方税は平成28年4月から法律に基づいて手続きが全面的に見直されたそうです。国税の場合は平成27年4月以前の分納は、ほと

んどが拒否されていたそうです。しかし、改正後、延滞税の免除や分納中の処分は受けないなど、安心して有利に分納できる制度になったそうです。さて、問題は地方税です。国税とは違い、非常にシビアな対応でほとんど分納は認めない、むしろ強権的というか、滞納者の生活に踏み込んで必要最低限の財産まで持っていくような、実情を考えない滞納整理をやっているところが多いので、これから地方税を国税と同じように納税者一人一人の実情を尊重した形での、滞納処分を行うよう働きかけをしていく必要があります。

地方税に対しても納税者である我々の側から分納の願いをして、市役所、町役場など行政を変えていくことが大事ではないかと思いました。私たちは、日常の相談業務では税金は、非免責債権なので税金に関する知識はあまり必要と考えていませんでした。しかし、これからは税金や国保の滞納問題の相談に対応できるようにスキルアップの必要性を感じる分科会でした。

中央社会保障学校に参加して

10/6から10/8まで高知県で行われた中央社会保障推進協議会主催の中央社会保障学校に参加しました。私は、主に生活保護の問題について関心があったので、生活保護問題対策全国会議の弁護士の小久保哲郎さんによる生活保護の現状についての講義についてご報告します。講義によると、日本では、生活保護を受けられるのに受けていない人がおよそ1000万人いるということでした。諸外国では、生活保護を受ける人は8割から9割とされているのに対し、日本では1割から2割しか生活保護を受けるべき人が受けていないということです。小久保弁護士は、スウェーデンに生活保護の調査に行ったとき、スウェーデンの人に、「生活保護制度は本当にマイナーな制度」という趣旨のことを言われたそうです。つまり、生活保護以外の制度（たとえば給付制奨学金、住宅手当、子ども手当、家族手当など）がとても充実しているため、生活保護制度に移行する人はわずかで、移行したとしてもすぐに抜け出る仕組みになっているのだそうです。一方、日本では、生活保護制度を除いて、年金、医療以外の公的な給付は殆どあり

ません。そのため、生活困窮に陥れば、たちまち生活保護制度で受け止めるほかありません。もし、日本にそのような住宅手当、家族手当、その他困窮を防ぐ公的な給付が充実していれば、スティグマ（否定的な烙印）を感じずに生活困窮から抜け出せるのです。



最後に小久保弁護士が指摘したのは今後の生活保護制度に対する攻撃についてです。政府は社会保障給付の抑制と称し、社会保障全体に対して様々な削減を予定しています。2017年には生活保護基準部会で「有子世帯の扶助加算の検証」などを検討課題として挙げ、母子加算の削減などを狙っています。あらゆる社会保障制度は憲法25条に基づく大切な権利です。この権利を守るため、反貧困の運動も社会保障の拡充に向けた運動を進めていくことが必要と感じました。（Y）

2016年12月相談会集計結果

【性別】男性42人、女性73人、不明14人

【年代】20代3人、30代11人、40代13人、50代9人、60代45人、70代20人、80代1人、不明27人

【知的媒体】1位41人通りがかり、2位18人チラシ、3位15人テレビ、4位8人新聞、5位4人生健会、6位3人法テラス

【相談内容】相続・相続放棄20人、生活苦18人、借金14人、医療・保険11人、労働10人（うちパワハラ4人）、損害賠償8人、年金8人、貸借7人、生活保護6人、生活保護6人（うち転居指導3人）、こころの悩み6人、人間関係の悩み5人、離婚5人、DV3人、保証3人、貸金3人、依存症2人、後見2人、祭祀承継・墓2人、NHK受信料1人、扶養控除1人、B型肝炎1人、住まい1人

共同募金の御願い

共同募金（赤い羽根）の社会課題解決プロジェクト振込用紙による活動資金のご援助をお願いします。

*振込料無料 所得税寄付金控除 有

*期間 2017年1月1日から3月31日まで

*反貧困ネット用の共同募金会振込用紙で入金いただいた募金は、広島県共同募金会から、全額が当団体に助成されます。どうぞご支援をお願い致します。

春の講演会のお知らせ

2月25日（土）午後3時30分から、広島弁護士会館2階大会議室において、自立サポートセンター・もやい理事長 大西連さんに「現代日本における住まいの貧困」をテーマにご講演いただきます。こちらも是非お誘い合わせの上、ご参加ください（なお、同日午後1時30分から3時30分まで同会館3階大ホールで山田延廣前理事長による憲法講座「今の憲法をどうして護ろうとするのか」もありますので続けてご参加ください。）

【大西 連さんプロフィール】

1987年東京生まれ 新宿での炊き出し・夜回りなどのホームレス支援活動から始まり、主に生活困窮された方への相談支援に携わる。現在、認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい理事長。

今後の相談会の予定（いずれも会場は広島駅南口地下広場、時間10:00~17:00）

2017年 3月28日（火）・29日（水）暮らしとこころの相談会（弁護士会主催）

2017年 6月13日（火）・14日（水）まちかど生活相談会（反貧困ネット主催）

2017年 9月 5日（火）・6日（水）暮らしとこころの相談会（弁護士会主催）

相談会イベント募集のお知らせ

相談会会場は、イベント広場となっているため、両日とも、昼12:00~12:30と16:30~17:00の1日2回、イベントを行っています。舞踊、楽器演奏、歌、ダンスなど、出演して下さる方（団体、個人問わず）を募集しています。皆様の出演協力をお待ちしています。



これまでのイベントの様子です。

会費・寄付振込先

正会員（個人）年会費 2,000円

正会員（団体）年会費 5,000円

賛助会員（個人）年会費 5,000円

賛助会員（団体）年会費 10,000円

広島銀行 白島支店 普通3235401 反貧困ネットワーク広島

郵便為替 01390-1-98338 加入者 反貧困ネットワーク広島

お願い

当会では、お米、インスタントラーメン、そうめんなど保存食やタオルなどの寄付も随時おまちしています。

また、パジャマ又はスウェット上下や冬用の男性用コートを必要とされる方も多いため、不要な物（清潔であれば中古でも結構です）があればご寄付を御願います。

シェルター開設をした2009年5月以降の、シェルター11室利用者のべ人数（2016年12月21日現在）

年代	男性	女性	合計
10代	7	15	22
20代	79	43	122
30代	156	41	197
40代	182	55	237
50代	160	38	198
60代	95	27	122
70代	36	11	47
80代	6	4	10
不明	16	28	44
合計	737	262	999

単身910名夫婦31名親子57名

NPO法人 反貧困ネットワーク広島 事務局 相談専用電話

広島市中区東白島14-15NTTクレド白島ビル7階

090-4890-1579

広島総合法律会計事務所内

平日10:00~17:00

電話:082-227-8181 FAX:082-227-1200

